

設 立 趣 意 書

わが国は、平均寿命の伸長とともに急速に少子・高齢社会に移行しております。少子化は子どものコミュニケーションを減少させ、高齢化は福祉、医療等の各分野に深刻な影響をもたらすことが叫ばれております。このような時代の中で、老若男女が手軽に親しむことのできるスポーツチャンバラは、皆のコミュニケーション、健康の維持増進に有効に貢献するスポーツであると考えております。

このスポーツチャンバラは、1971年に横浜市の田邊哲人が「護身道」という形で発祥させました。以来、「使術は、護身から始まる」という「スポーツ護身道」の理念に基づき、「安全」、「公平」、「自由」および老若男女のコミュニケーションや健康の維持増進をテーマとして活動してきました。1973年には「全日本護身道連盟」（後に「国際スポーツチャンバラ協会」と改称）を創設し、その後世界に活動が広がるにあたり、2000年に国内組織として「日本スポーツチャンバラ協会」を設立いたしました。2005年11月現在、会員31万人を数え、インストラクター等の公認指導員が4500余人に至っております。

一方、各都道府県のスポーツチャンバラ協会の設立に努め、現在46都道府県協会が存在しており、残りの1県においても準備委員会を立ち上げております。また、その傘下の市区町村支部の組織化も進め、くまなく地方組織の充実を図っております。

毎年開催している日本選手権大会は1974年の横浜で開催された初回大会より既に31回を数え、各国の代表が集う世界選手権大会も1990年から日本において毎年開催しており、開催数も16回に至っております。国内の各地域においても各地区大会や講習会が開催されております。また、協会では、力の差や体躯の差に関係なく、「安全」に「公平」に「自由」に行えるよう安全な用具の開発にも取り組んでおります。

このような中、生涯スポーツ・競技スポーツとしてのスポーツチャンバラの普及・発展を通じて、青少年の健全育成また高齢者、女性の心身の健康の維持増進、精神力の強化を図り、有為な人材の育成に努めていくために、日本スポーツチャンバラ協会は、これらの事業をさらに充実させていく責任があると痛感しております。このため、「社団法人日本スポーツチャンバラ協会」を設立し、より安定し、かつ継続性を有する組織になることが必要であると考えております。

以上が社団法人設立の趣旨であります。